


I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

| | | 学校名 | 県立青森聾 | 学校 |
|--------------|--|--|---|---------|
| 授業について | 教科領域名 (✓又は■で記入する。) | <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input checked="" type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ） | | |
| | 単元(題材)名 | あいさつ名人になろう。 | | |
| | 単元(題材)の目標 | あいさつを通して、周囲の人とよい関係を築こうとする態度を育てる。 | | |
| 学習集団と実態 | 学部・学年・人数 | 高等 | 部 | 1 年 1 人 |
| | 本単元(題材)における学習集団の主な実態 | <ul style="list-style-type: none"> ・知っていることについて自分から話すことはできるが、自分の意見や考えを発表することは難しい。 ・発音が不明瞭で、自分から手話や指文字を使うことが少ないため、相手に自分の言いたいことを伝えることが難しい。 ・漢字の読み書きが難しく、ひらがな・カタカナが読めても意味がわからない言葉が多い。 | | |
| I C T 活用について | 使用した支援機器・教材の名称 | iPad | | |
| | 使用したアプリケーションの名称 | CMV edu |  | |
| | 主な活用の用途 (✓又は■で記入する。) | (複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input checked="" type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援 | | |
| | I C T 活用のねらい | ICT を使用し、変化を視覚的に捉えやすいようにすることで、生徒自ら違いや共通点に気づき、気付いた箇所を指差しながら、教師とコミュニケーションを取ることで生徒の考えを言葉で引き出せるのではないかと考えた。 | | |
| 活用の状況と支援 | <p>本時の授業においては、教師が模範で行なったあいさつのよい例と悪い例を動画で撮影し、その動画をアプリに取り込み、同時に再生することで比較した。それぞれの動画が左右に表示されるため視覚的に比較しやすい。</p> <p>また、直感的で簡易な操作で拡大・縮小ができたり、一方の動画だけを再生することができたりするため、生徒は何度も繰り返し再生した後、教師のあいさつ時の顔を拡大表示して、「笑っているからいいと思います。」や「こっちを向いているからいいと思います。」などと、気付いた点を自身の意見として話すことができた。</p> <p>また、二次的な効果として、悪い例を見て、どのようにしたら良い例に近づけることができるかを話す場面も見られた。</p> | | | |